

高校生・受験生

医師体験Q&A

1/2

2026年春の1日医師体験で寄せられた高校生からの質問に
京都民医連中央病院 初期研修医と京都市城南診療所所長 津島医師
がそれぞれお答えします。



Q

医師になりたいとは思っているが、①なぜ医師になりたいのか。②どのような医師になりたいのか。という質問にははっきり答えが見つかりません。どのように明確化しましたか？

A

- ① 医師を志した明確な理由やきっかけがあったわけではありません。ただ、「人の役に立ちたい」「感謝されたい」「安定がほしい」など、医師になりたい理由を思いつくままに書き出し、面接などの際にはこの内の1か2つを少し深めて持って行くようにしていました。
- ② 大学の実習や実際に医師として働く中で尊敬できる先生に出会う機会があると、具体的なイメージが湧くと思います。また、様々な先生がご自身の働き方についての記事や本を書いているので、そういうものを読むのも良いと思います。



初期研修医



Q

小さな子供の場合、自分の症状を上手に伝えることができず、間違えて伝わってしまうことはありますか。その場合どう診察するのですか？

A

直接自分の症状を伝えられないお子さんでは保護者から普段との違いや食事を食べているか、周りで風邪が流行っているかなど様々なことを聞き取ります。保護者からの違和感を大切にします。また、お子さん自身が泣き止まなかったり、逆にずっと静かだったりしないか、皮膚や爪の色を見たり、血圧や呼吸数はどうかなど診察でも重篤な疾患が隠れていないか丁寧にみていきます。



初期研修医



Q

大学卒業後の進路・就職先はどのように決めましたか？

A

複数の病院を見学して、その中で雰囲気最も自分に合っていると感じた病院を選びました。進路を決めるときは、自分が興味を持てるか、実際に見学して合うと感じるかを大事にしていました。大学に入ってから考えが変わることも全然あると思うので、今の時点で明確に決まっていなくても大丈夫だと思います。その時々で自分の興味があることを大切にしながら、少しずつ選んでいけばいいと思います。



初期研修医

高校生・受験生 医師体験Q&A

2/2



Q 持病がある場合でも医師を目指していいのでしょうか？

A

先天的に耳が聞こえない医師の友人がいます。マイクやAIといったデバイスを使って診療にあたっているそうです。医師にもいろんな診療科や働き方があって、便利な道具も増えてきています。持病があると困難もたくさんあると思いますが、その分、患者さんの気持ちを理解できる素敵な医師になれる可能性もあると思います。



初期研修医



Q 医師の数って増えているのでしょうか？減っているのでしょうか？

A

日本の医師の絶対数は増加しています。医師免許合格者は2026年で9139人、2025年12月31日の医師総数は347,772人（人口10万人対281人前年+4503人）と年々増加しています。

しかし、国際的（2017年）には人口10万人対で世界1位のオーストラリア518人などに比べ31位（平均339人）とかなり少ないです。また、直美問題で明らかのように、内科や外科のような修練に時間と労力がかかる科を選択する医師が減っており、さらに、iPS細胞などの研究者も需要も高いです。以上から、臨床現場の医師は「いつも足りない」実感があります。



津島医師



Q 医師として働き続ける上で大事なことは何ですか？

A

臨床医になるなら、科学的な正確さや精密さとともに、患者さんを癒せる豊かな人間性も求められ、日々成長することが大切です。また、命と向き合う仕事のため常に倫理的対応も求められます。この分野は医学部教育では浅い点であり、継続して自ら勉強すべき不可欠な点です。更に、自身が燃え尽きないよう、自分の熱情と継続のバランスをとる冷静さが必要です。また事故や救急そして時間を問わずの対応が求められるので、心身ともの健康維持も大事です。



津島医師

高校生・受験生の皆さんの疑問を少しでも解消できたなら幸いです。

作成：京都民医連事務局 医学生担当

☎ : 075-323-7961 (代表) ✉ : igakusei@kyoto-min-iren.org